

# 再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：国道・防災課

担当課長名：中島威夫

事業名	一般国道211号 <small>こいしわら</small> 小石原バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	福岡県	
起終点	自：福岡県朝倉郡小石原村大字鼓 至：福岡県朝倉郡小石原村大字小石原			延長	2.5 km		
事業概要	小石原村の幅員狭小、線形不良区間の解消のために、延長2.5kmのバイパス事業を昭和63年度から実施。事業効果の早期発現を目的に事業区間を第1期区間（1.2km）と第2期区間（1.3km）に分けて整備している。						
S63年度事業化	都市計画決定なし （H 年度変更）		H5年度用地着手		H6年度工事着手		
全体事業費	44 億円		事業進捗率	94 %		供用済延長	1.2 km
計画交通量	4,200台/日						
費用対効果 分析結果	B / C (事業全体) 1.5 (残事業) 3.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 4 / 53 億円 事業費：2 / 51 億円 維持管理費：2 / 2 億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 15 / 79 億円 走行時間短縮便益：14 / 78 億円 走行費用減少便益：1 / 1 億円 交通事故減少便益：1 / 1 億円	基準年 平成15年			
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>国土・地域ネットワークの構築（現道等における大型車すれ違い困難区間を解消する）</li> <li>個性ある地域の形成（主要な観光地へのアクセス向上が期待される）</li> </ul>					他3項目に該当	
関係する地方公共団体等の意見	平成元年度に25市町村により一般国道211号線整備促進期成会（会長 飯塚市長）が発足しており、国や県に対し活発な要望活動（H15.7）が行われている。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	小石原村の「陶の里整備構想」により「伝統産業会館」や「陶の里」が完成し従来の素通り型観光から滞留滞在型観光へ変化しつつあり、昭和63年度の交通量2,897台/日から平成11年度の交通量4,729台/日となっており約6割の交通量が増加している。						
事業の進捗状況、残事業の内容等	平成14年度に第1期区間（L=1.2km）を部分供用しており、平成15年度末までに94%の事業進捗の予定。残事業：物件3件、用地面積 A=3,800m <sup>2</sup> 、橋梁1橋、舗装 L=400m						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	事業効果の早期発現を図るため施工区間を2区間に分け事業費の集中投資を図りながら、第1期区間を平成14年度に部分供用を行っている。今後も、2期区間の早期完成に向けて事業推進に鋭意努力しており、円滑な事業進捗を図っている。						
施設の構造や工法の変更等	経済性を考慮した最適な平面や縦断の線形を選定するとともに、各種工法の採用においても常に経済性を視野に入れて、コスト縮減を図っている。今後も、新工法・新技術等を積極的に検討・採用し、コスト縮減に努めていく。						
対応方針	事業継続						
対応方針決定の理由	第1次緊急輸送道路ネットワークに指定されるも、未改良であり、防災点検箇所を含み、迂回する代替道路もないなど整備の必要性が高いため						
事業概要図	<p>事業概要図は、一般国道211号小石原バイパスの路線を示しています。起点は朝倉郡小石原村大字鼓、終点は朝倉郡小石原村大字小石原です。全長はL=2.5kmです。第1期区間（L=1.2km）は既に供用済です。図には、既存道路、バイパス、橋梁、舗装区間などが示されています。</p>						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものです。